

# グループ紹介

## 奈良すずらん会



平成6年(1994年)に、奈良町に住む有志の間で一つの話が出ました。「自分たちの励みになるような活動はないだろうか」という話題でした。家事全般を見てもあらゆる生活の場には電化製品があり、以前よりも時間的なゆとりができました。そのゆとりを生かして、人生を有意義に過ごしたいとの思いからでした。

話し合いで、「そうだ、みんなでリズムに合わせて民謡をやってみよう」ということになり、始まったのが「奈良すずらん会」です。

奈良町には農業会館があるので、そのホールを会場にしてさっそく練習を始めました。しかし、練習するうちに自分たちだけで踊って満足するより、社会のために役立ちたいと考えるようになり、茨木市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録をしたのです。

活動場所は、老人ホーム、グループホーム、デイサービスセンターなどです。幼稚園や保育園でのお誕生日会やクリスマス会などにも出向いて踊ります。また8月には、盆踊りの依頼もあちこちからいただき、出かけていきます。

時には市外の催しにも参加し、「盆踊りin大阪ドーム」では総勢5,000人の人たちと踊ることができました。全国規模の集まりでは、「元気おどりんピック」や「全国盆踊りコンクール」などにも出場し、活動の励みになりました。

これからもメンバーが心をひとつに合わせて活動を続けていきたいと思えます。そして一人でも多くの方に喜んでいただき、やってよかったという感動を味わいたいと思えます。

連絡先 西村 悦子 623-6278

## 街ingいばらき (まっちゃんぐ)



私たちの活動は、茨木市の都市計画課が主催した「まちづくり塾」がきっかけで始まりました。せっかくまちづくりに興味のある者が集まっているのに、塾だけで終わらせるのはもったいないので、引き続いてもっと情報交換や勉強などができればという思いからつくりました。

現在のメンバーは30歳代から70歳代の約30人で、定年退職した者や会社員、接骨院経営者、教師、建築士、骨董屋、市職員などバラエティーに富んでいます。メンバーは、「街ingいばらき」以外にも積極的に幅広い活動をしており、そんな活動の情報交換の場にもなっています。

主な拠点は、築80年ほどの古い民家(メンバーの骨董屋)の奥座敷です。中庭を見ながらの月1回の例会は、暑さ寒さや四季の花など、現代生活ではなくなった季節感を感じながら行います。例会以外には、あちこちに見学に行きます。茨木市内はもちろん、神戸や箕面、枚方など面白そうな場所には出かけていきます。

この活動を通して、今まで気が付かなかった茨木市の良いところや足りないところ、失われつつあるものなどを考える機会ができました。また、他市の良いところを見ることで、茨木市のまちづくりのヒントになる多くのことを学びました。

この学びを生かして、まちづくりの実際の提案を少しずつでもできるような活動も増やしたいと思えます。

本町にある茨木交流倶楽部には、私たちの月報『街ingいばらきニュース』が置いてありますので、ぜひ一度ご覧になってください。

連絡先 杉山 英俊 632-0941

## 市民インタビュー



### 第24回

炭焼き施設「ゴンゴンファクトリー」  
うやま やすし  
宇山 保土さん

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、きっとあなたも勇気づけられることでしょう。



車作地区の人たちは、昔盛んだった炭焼きを復活させ、「ゴンゴンファクトリー」という炭焼き施設を造りました。宇山保土さんはその中のひとりで、炭焼きを通して豊かな自然を知ってもらおうと、訪れる人たちに炭焼きの指導などを行っています。宇山さんが語る車作地区の自然と炭焼きへの思いとは……。

#### 炭焼きをするきっかけは何ですか。

車作地区は、もともと炭焼きが盛んな所でしたが、だんだんと衰退し、昭和40年(1965年)頃にはほとんど見かけられなくなりました。安威川ダムの建設で、地区の一部が水没することになり、何かを残しておきたいとみんなで考えた結果、昔盛んだった炭焼きを復活させようということになりました。地区の人はもちろん、ボランティアの人たちも含めて延べ200人がおおよそ2カ月かけて、平成12年(2000年)春、炭焼き施設「ゴンゴンファクトリー」を造りました。

#### 「ゴンゴンファクトリー」という名前の由来を教えてください。

地区の人たちにこの施設の名前を募集したところ、若い人のアイデアで、車作の権内水路(深山水路)を造った畑中権内の権と、車作の「作(造)」をとって「ゴンゴンファクトリー」という楽しい名前が付きました。

#### 炭の材料は何ですか。また出来上がるまでにどのくらいの時間がかかるのですか。

材料は、主にクヌギとカシです。1回で約200kgの炭ができます。窯の温度は850 くらいでしょうか。炭焼きの手順はまず、窯の中に炭材を立てて入れ、火を付けて10時間ほどたきます。次に、下方の通風口だけを残してふたをし、炭材の炭化が終わったら、窯を密閉します。窯の中の火が消え、窯は次第に冷えてきます。冷えたところで窯口を開き中の炭を取り出します。ここまでおおよそ1週間から10日間かかります。

炭は、毎回出来が違います。タイミングが難しいのです。早く出すと、半分はまだ木のままだったり、遅いと灰になっていたりします。窯を開ける時はいつもながらドキドキします。

#### 炭焼きをして良かったと思うことは何ですか。

思い通りの炭ができた時はうれしいですね。それよりもうれしいのは、多くの人たちとの交流です。正直、炭焼きはしんどいです。けれどみなさんに喜んでもらい、いっし

#### よに楽しく過ごしていると、その思いも消えてしまいます。環境保全のために心掛けておられることは何ですか。

むやみに木を切らないことです。常に景観や保全など山全体のことを考えています。木が密集している所では木がよく育つように、残しておく木と間引く木を見極めて切っています。大阪府などの協力で、ほかの地域で伐採した木を譲ってもらい使用するという事もしています。また、専門家の意見を聞いて、珍しい木の保存にも努めています。今後の抱負を聞かせてください。

炭焼き窯のある所は、深い山の中というイメージがありますが、ここは市街地から近い所にあり、すぐ横に安威川の支流である下音羽川が流れています。この川は人の手が加わらず、水が澄んでいます。この地区の「ほんまもんの自然」をもっと多くの人に知ってもらいたいです。そのためにもここに住んで、炭焼きを続けていきたいと思っています。ここが山と街を結ぶ憩いの場となり、環境を考える場となればうれしいです。それが私の役目だと思っています。

#### 宇山さんにとって「生涯学習」とは何ですか。

車作の伝統である炭焼きを通して、自然を楽しむことです。そしてこの豊かな自然を多くの人に発信することが私の「生涯学習」だと考えています。



担当：阿曾 西村 林田